



イーレックス株式会社[9517]

再生可能エネルギーをコアに
電力新時代の先駆者になる

2024年3月期 第3四半期
決算補足説明資料

2024年2月9日

本資料は弊社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先

イーレックス株式会社 IR広報部

Mail: ir.info@erex.co.jp

- 1. 24.3期 第3四半期決算概要、第4四半期の見通し**
2. 25.3期 業績見通し(2023年11月10日発表資料の補足)
3. 海外事業の進捗

2024.3期 第3四半期実績(2023年4月～12月)

- 売上高は、高圧の需要の減少、JEPXへの卸売販売量減少及び価格の下落等により前年対比△374億円
- 調達電源の余剰分を安価なJEPXで販売せざるを得なくなり逆ザヤが発生
- 市場連動プラン等料金プランの拡充により小売の収支はプラス

(単位：億円)	'23.3期 第3四半期累計 (実績)	'24.3期 第3四半期累計 (実績)	増減	増減率	'24.3期 通期 (11/10修正計画)
売上高	2,217	1,843	△374	△16.9%	2,194
EBITDA*	160	△105	△265	—	—
販管費	80	79	△1	△2.1%	—
営業利益	143	△151	△294	—	△213
経常利益	111	△138	△249	—	△198
純利益*	59	△158	△217	—	△220

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+のれん償却額等

*親会社株主に帰属する当期純利益

【注記】企業結合について前期に暫定的な会計処理を行っていましたが、企業結合日における時価の算定等が完了したため、当期に会計処理を確定しております。その結果、前期のれん等金額の一部を変更しております

2024.3期 第3四半期実績(2023年10月~12月)



- 売上高は、高圧の需要の減少、JEPXへの卸売販売量減少及び価格の下落等により前年同期比△207億円
- 調達電源の余剰分を安価なJEPXで販売せざるを得なくなり逆ザヤが継続
- 市場連動プラン、新料金プラン（ハイブリッドプラン、完全固定）等料金プランの拡充により小売の収支はプラス

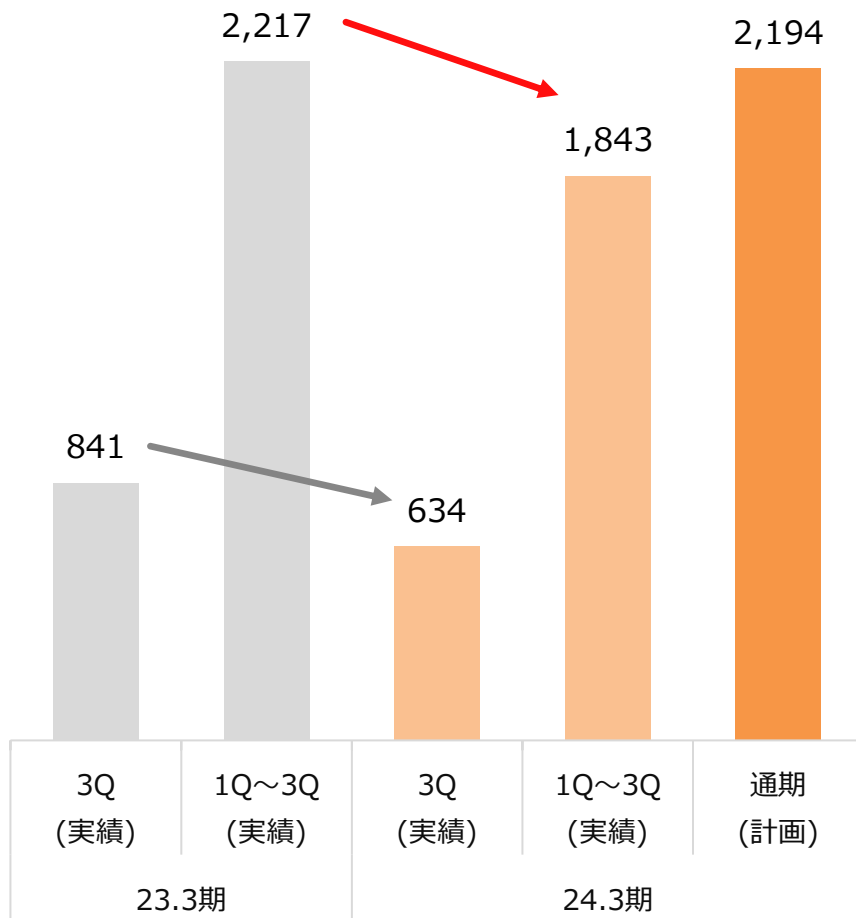
(単位：億円)	'23.3期 第3四半期 (実績)	'24.3期 第3四半期 (実績)	増減	増減率
売上高	841	634	△207	△24.6%
EBITDA*	52	△34	△87	—
販管費	27	25	△1	△7.3%
営業利益	35	△44	△79	—
経常利益	35	△46	△82	—
純利益*	13	△47	△61	—

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+のれん償却額等

*親会社株主に帰属する当期純利益

【注記】企業結合について前期に暫定的な会計処理を行っていましたが、企業結合日における時価の算定等が完了したため、当期に会計処理を確定しております。その結果、前期ののれん等金額の一部を変更しております

(単位：億円)



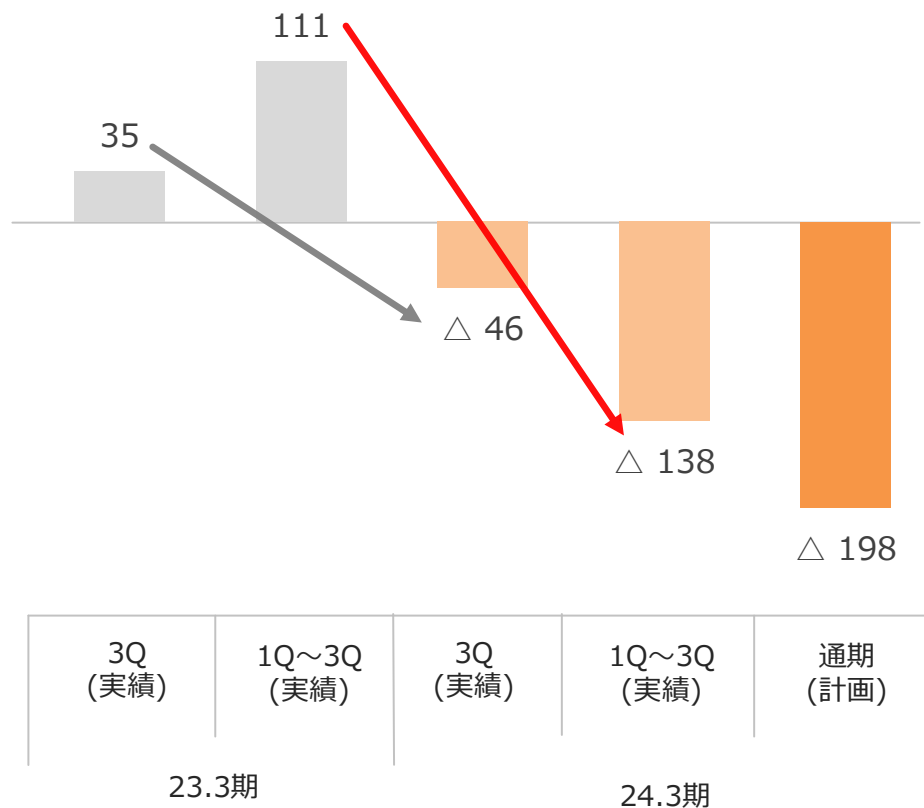
売上高 **1,843** 億円
前年比 Δ 16.9%

(単位：億円)	売上高(構成比)	
	'23.3期 1Q~3Q (実績)	'24.3期 1Q~3Q (実績)
高圧小売	437	343 ^{※1}
低圧小売	299	298 ^{※1}
卸売(発電所外販含む)	1,446	1,110 ^{※2}
燃料外販、都市ガス等	33	91

※1激変緩和補助金含む

※2豊前バイオマス発電所は運営ルールの変更により、今期より連結対象から除外された影響を含む

(単位：億円)



経常利益 △ 138 億円

- 割高な電源を調達したため収益大幅減
- 低圧の市場連動化及び小売需要減に伴い発生した調達電源の余剰分を安価なJEPXに卸販売せざるを得なくなり逆ザヤが発生
- 糸魚川発電所は、高価格石炭在庫の影響で上期大幅な減益要因となったが、3Qは現市況の安価な燃料に切り替えたことで大きく改善
- 市場連動プラン等料金プランの拡充により小売の収支はプラス

2024.3期 第3四半期ハイライト（高圧小売）

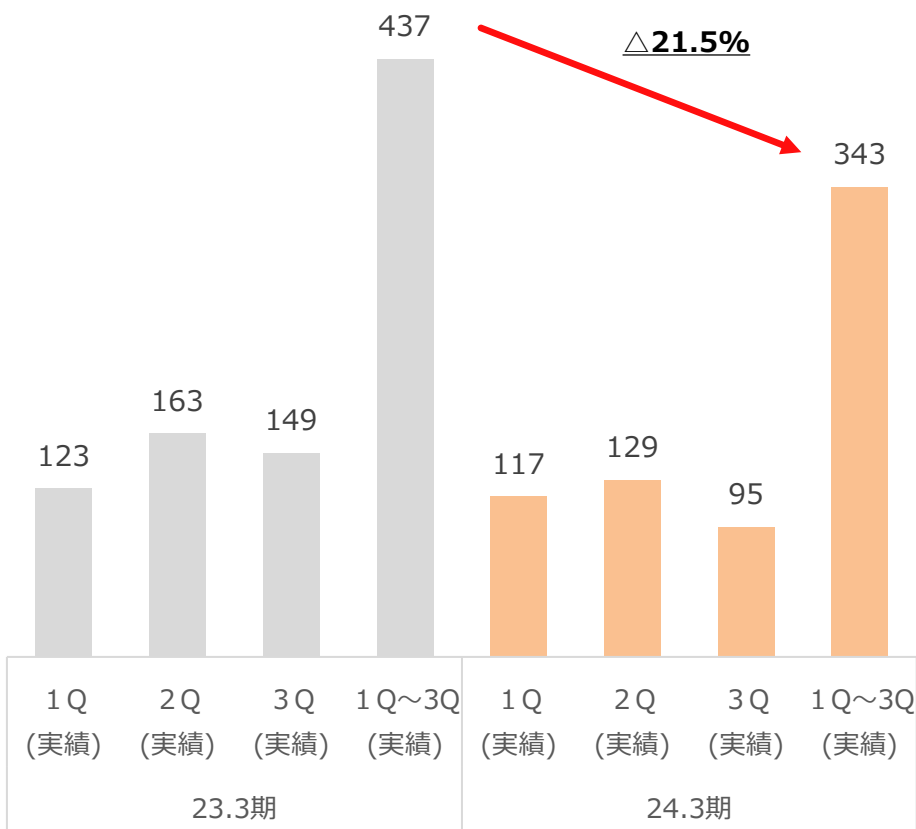


- 利益重視の値上げ戦略により販売電力量は△42.4%となったが、単価が上昇したことで一件あたりの売上上昇
- 料金メニューの拡充（電力市場を用いた当社独自プラン）により売上高の減少を低減

売上高

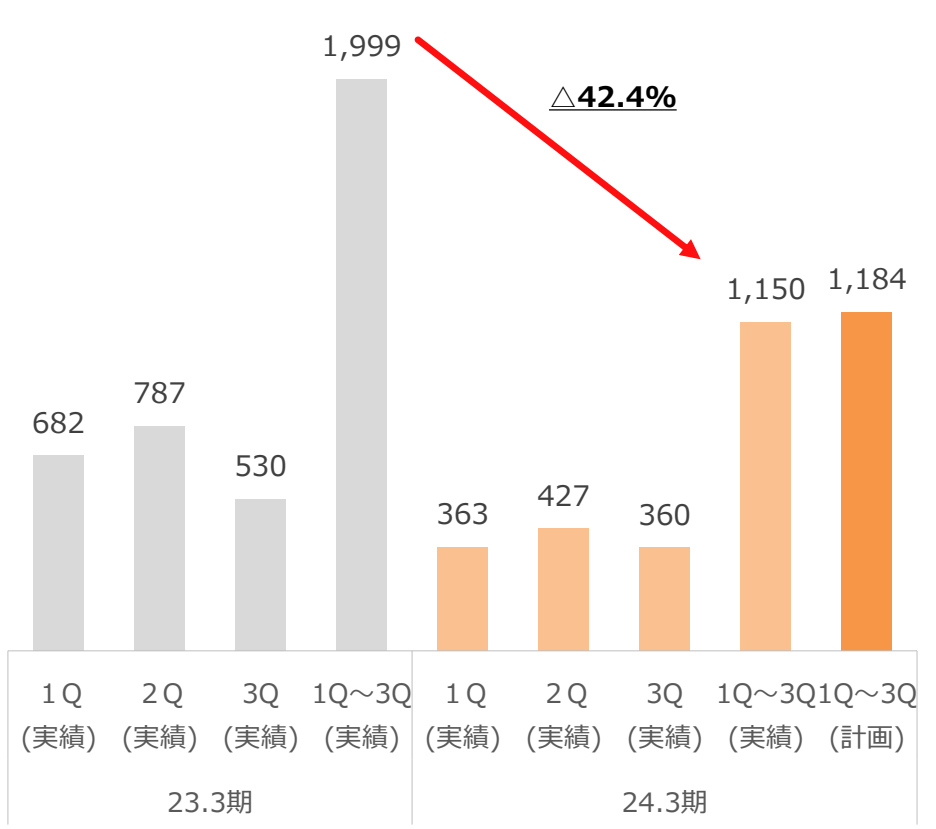
※激変緩和補助金含む

(億円)



販売電力量

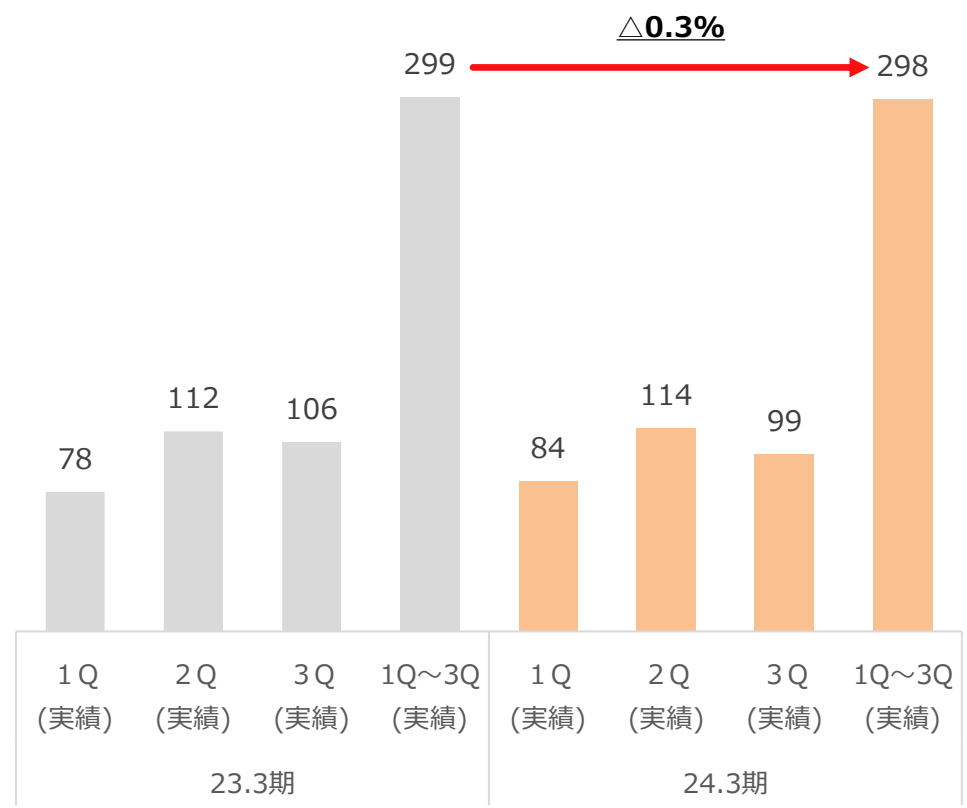
(GWh)



- 市場連動プランへの切り替えにより利益率は安定化
- 販売量、供給件数ともに前期比概ね横ばいだが、WEBチャネル強化等により計画対比は上回る

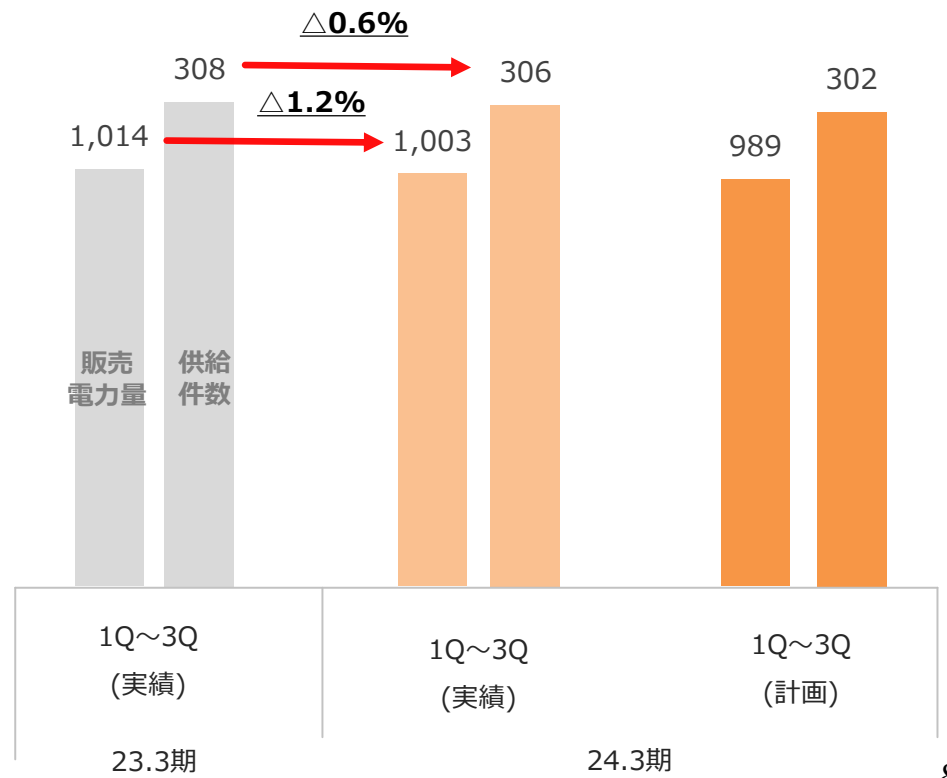
売上高

※激変緩和補助金含む (億円)



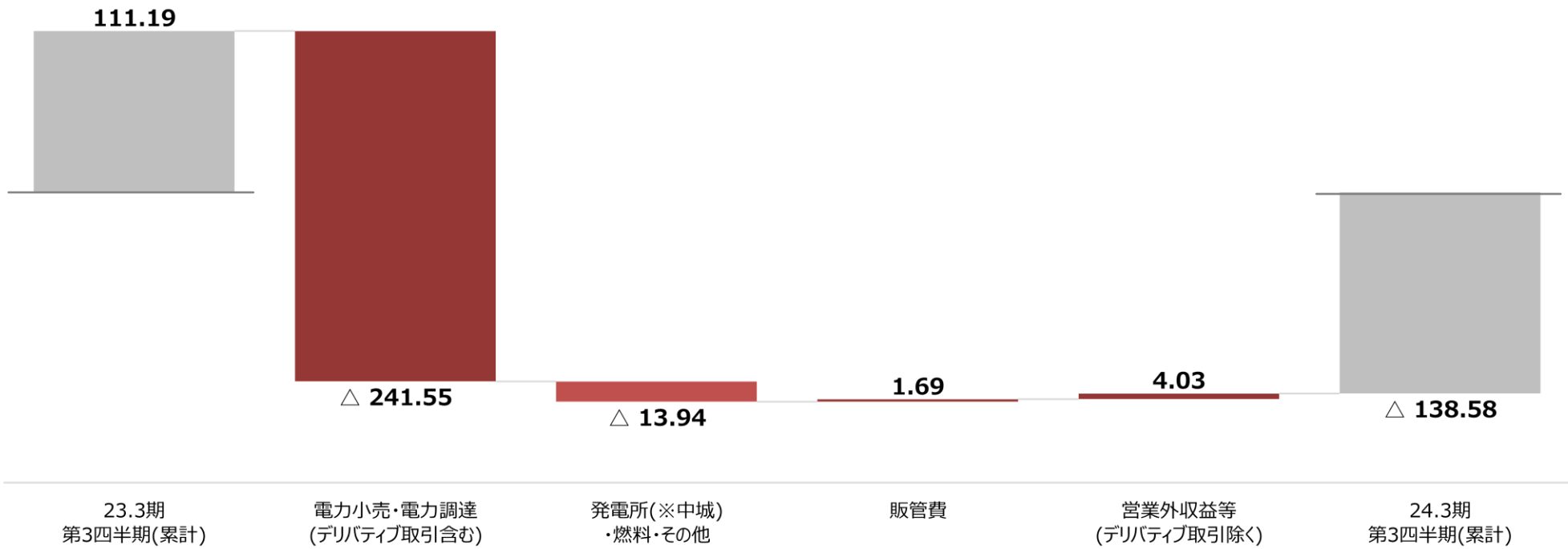
販売電力量・供給件数

(販売電力量:GWh)
(供給件数:千件)



経常利益

(単位：億円)



※豊前バイオマス発電所は運営ルールの変更により、今期より連結対象から除外された影響を含む

【注記】企業結合について前期に暫定的な会計処理を行っていましたが、企業結合日における時価の算定等が完了したため、当期に会計処理を確定しております。その結果、前期のれん等金額の一部を変更しております

(単位：億円)

①電力小売/電力調達 △241.55

- 割高な電源を調達したため収益大幅減
- 小売の需要減及び低圧の市場連動化による余剰分をJEPXに逆ザヤで卸販売した結果、利益大幅減
- 利益重視の値上げ戦略により、高圧は販売電力量大幅減となったが、利益増
- 市場連動プラン等料金プランの拡充により小売の収支はプラス

②発電所(中城)・燃料・その他 △13.94

- 豊前連結範囲からの除外(24.3期より) △14.30
- 中城の発電原価増(稼働減等) △6.37
- 燃料外販等 △3.03
- 土佐発電所FIP補助金 +14.04 等

③販管費 +1.69

- 代理店報酬(減) +4.11
- 販売促進費(減) +1.51
- システム関連費(増) △2.50
- その他(増) △1.17 等

④営業外収益等 +4.03

- 関係会社受取利息(増) +1.75 等

連結貸借対照表の概要

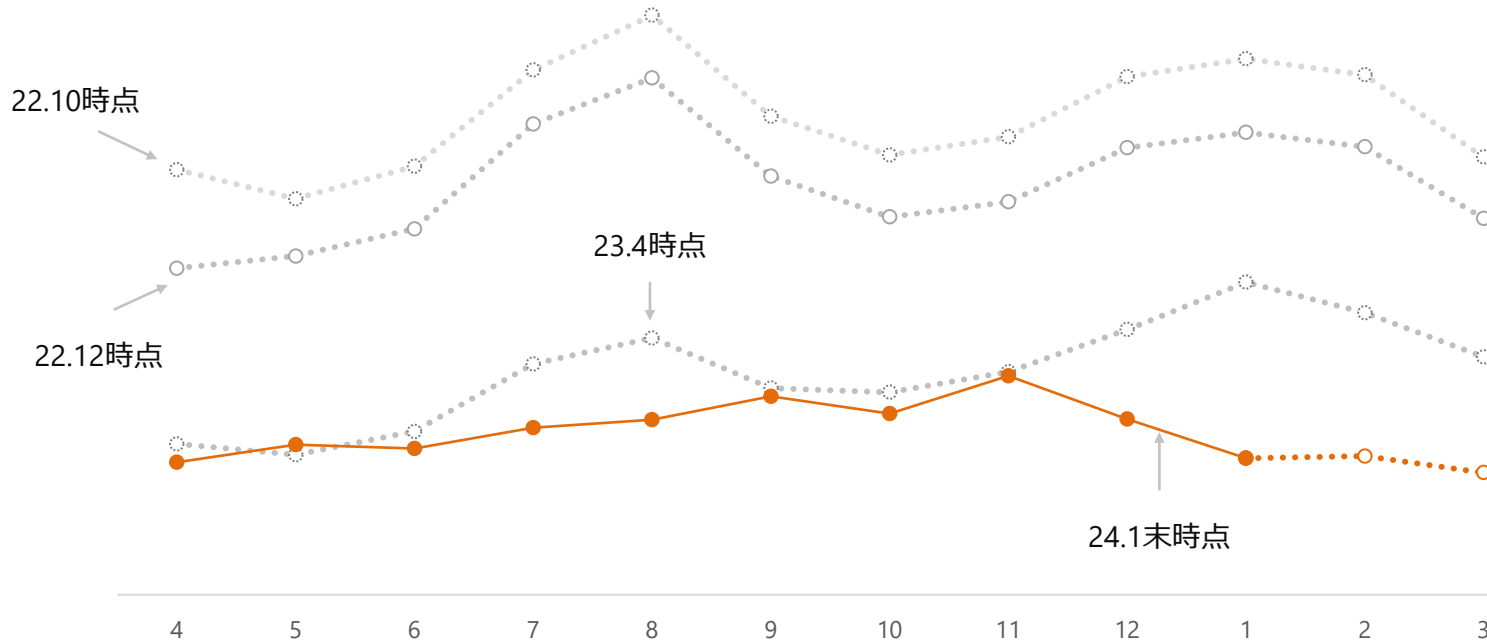


(単位：億円)	2023.3期 期末	2024.3期 第3四半期		
		実績	増減	主な増減要因
流動資産	793	682	△110	<ul style="list-style-type: none"> 現金及び預金の減少 顧客数の減少による売掛金の減少
固定資産	927	759	△167	<ul style="list-style-type: none"> 豊前ニューエナジー（以下、BNE）が連結範囲から除外されたことによる、建物及び構築物、機械装置の減少 関係会社出資金の増加（BNE連結除外のため）
資産合計	1,721	1,442	△278	
流動負債	484	399	△84	<ul style="list-style-type: none"> 回転期間の短縮による買掛金の減少 未払法人税等の支払による減少
固定負債	497	467	△30	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入金の減少（BNE連結除外のため） 社債の発行による増加
負債合計	981	866	△114	
株主資本	575	404	△171	<ul style="list-style-type: none"> 当期純損失、配当金の支払による減少
その他の包括利益累計額	44	82	38	<ul style="list-style-type: none"> 為替予約による繰延ヘッジ損益の増加
非支配株主持分	119	87	△31	<ul style="list-style-type: none"> BNE連結除外のため
純資産合計	739	575	△164	
現金及び預金	336	254	△82	<ul style="list-style-type: none"> BNE連結除外のため 運転資金の増加、法人税等の支払による減少
有利子負債	551	561	10	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入金の減少（BNE連結除外のため） 社債発行による増加 ベトナム事業のための借入金の増加
自己資本比率	36.0%	33.8%	△2.2%	<ul style="list-style-type: none"> 当期純損失による自己資本の減少

2024.3期 第4四半期の見通し

- 暖冬、電力供給力過多等の影響により、JEPX価格が低位に推移することを想定

東京エリアベースロード先物価格推移（円/kWh）



観測	年平均 (円/kWh)
22.10	37.1
22.12	30.9
23.4	16.5
23.9	13.9
24.1	12.0

※観測時点
※当社にて分析して作成

1. 24.3期 第3四半期決算概要、第4四半期の見通し
- 2. 25.3期 業績見通し(2023年11月10日発表資料の補足)**
3. 海外事業の進捗

2025.3期 業績見通し(2023年11月10日発表資料の補足)

- 25.3月期は割高な相対電源の調達終了に伴い黒字化を計画
- 小売の料金プラン別に調達先を調整し、JEPX等市況の価格変動に対応(次ページ参照)

(単位：億円)	'24.3月期 通期 (11/10修正計画)	'25.3月期 通期 (見通し)	差異
売上高	2,194	2,000	△194
営業利益	△213	47	260
経常利益	△198	43	241
純利益※	△220	28	248

〈売上・利益の増減要因〉

- 調達余剰の解消に伴う電力卸売の減少
- 割高な相対電源の調達終了
- 逆ザヤでのJEPXへの販売の解消

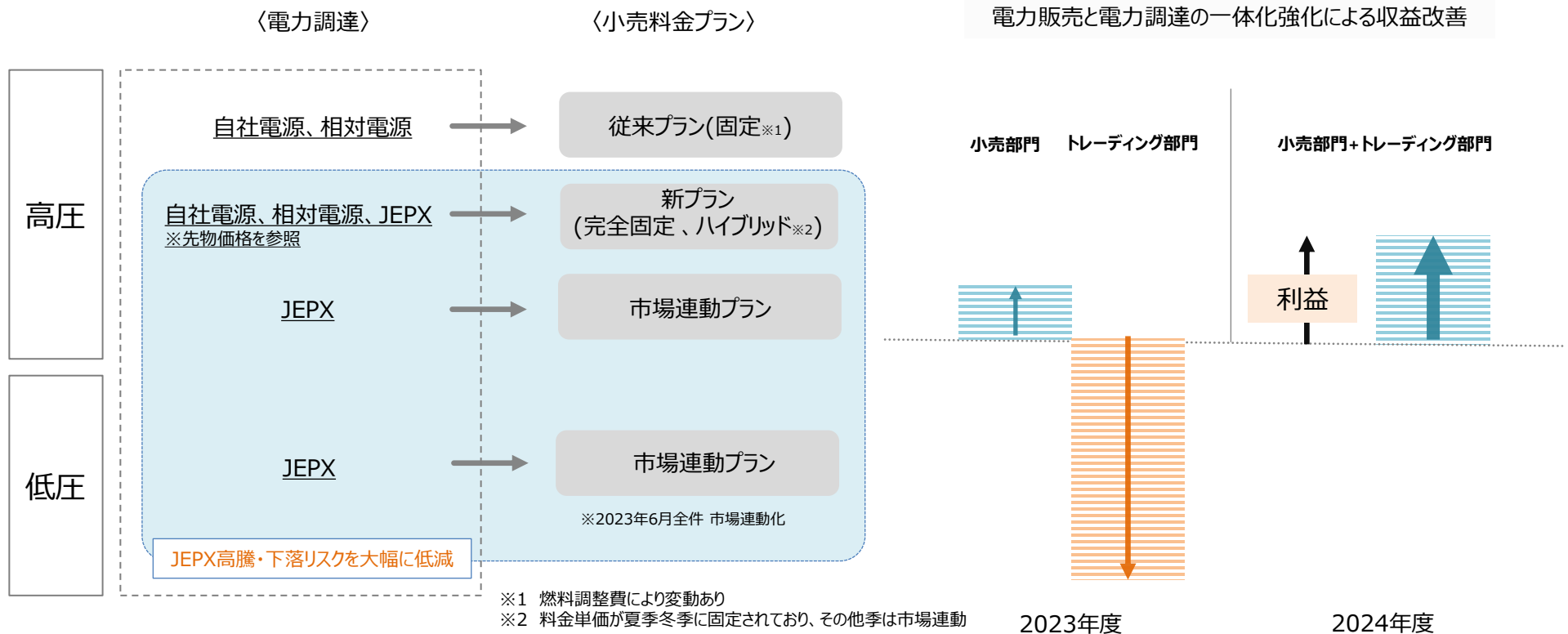
※親会社株主に帰属する当期純利益

小売・トレーディング方針(2023年11月10日発表資料の補足)

- 2023年度の収益大幅マイナスの要因となっている割高な調達契約は2023年度で終了
- 低圧を中心に市場連動化したことより収益は安定化
- 2024年度は期中取引を含めニュートラルな調達を行うため、原則としてポジションは取らない
- 小売の料金プランに応じた、自社電源・相対電源・JEPXからの調達を実施

電力調達の基本的なイメージ

業績改善イメージ

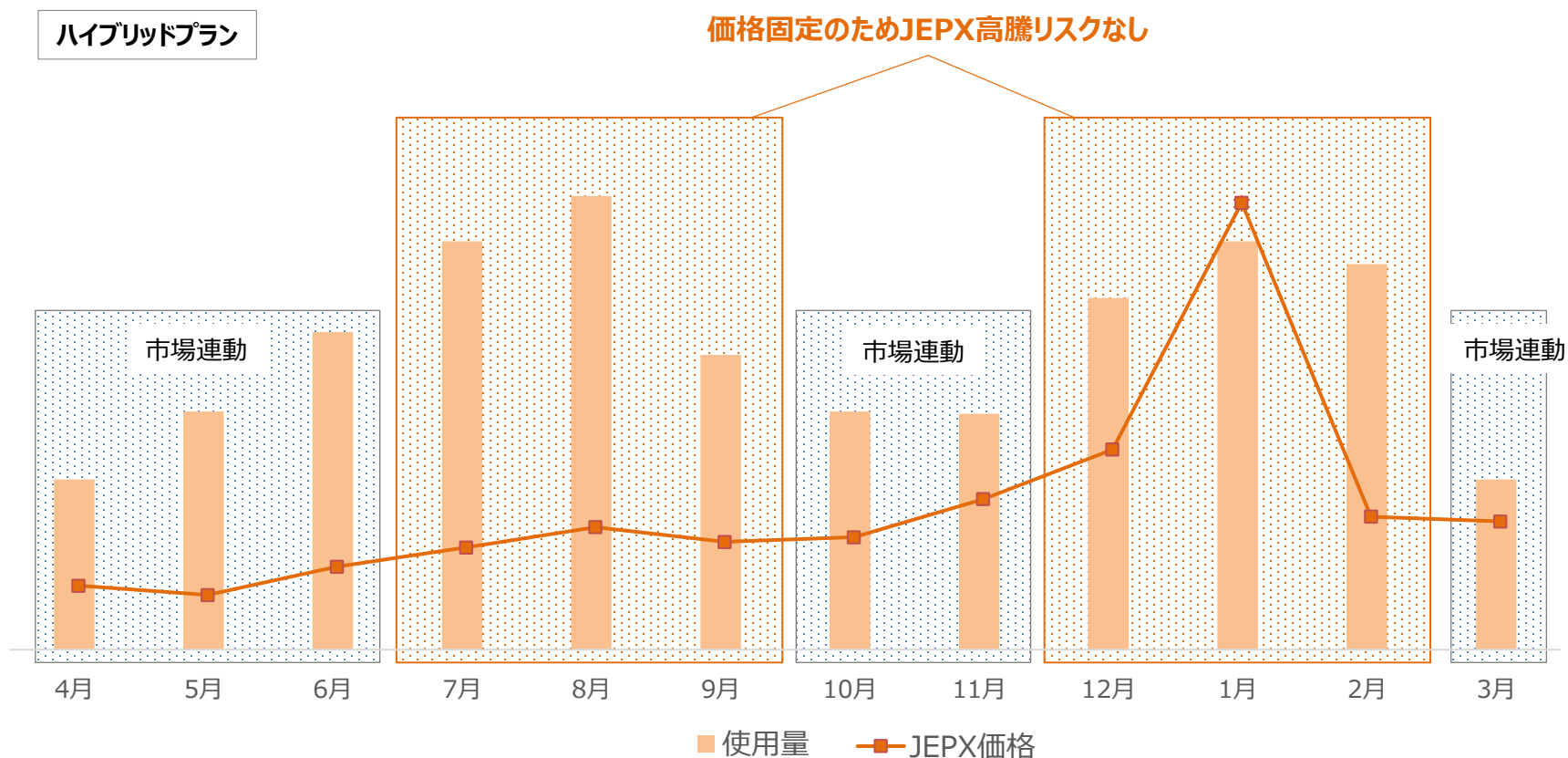


- 電力市場価格が低位で推移、また需要家の環境意識の高まりも加速しており、市場環境変化への対応を実施中
- 顧客ニーズに対応した複数プランを用意することで、差別化戦略を強化し、選ばれる小売電気事業者を目指す

分野	FY2024
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ● 電力供給を通じて、需要家の脱炭素に貢献する ● 自社発電・コスト削減を通じて安価な電力を供給する ● 電力先物等を活用した新たな価値を創造する <p style="text-align: right;">▶ 選ばれる電力小売へ</p>
高圧	<ul style="list-style-type: none"> ● 脱炭素ソリューションの強化 ● 代理店を通じた完全固定プランの提供加速 ● 市場連動型やハイブリッドプランなど顧客ニーズに対応したプランを拡充
低圧	<ul style="list-style-type: none"> ● 全顧客CO2フリー化による環境価値の訴求 ● WEBチャネルの強化 ● 新規代理店の開拓（転居時の提案など） ● DRや卒FITを活用した新サービスの充実

2025.3期 強みを生かした料金プランの拡充

- 夏季と冬季を固定単価とし、その他季をJEPXに連動させることで、市場価格下落時のメリットを享受しつつ、高騰時のリスクを限定させるプラン
- 他社に先駆けて電力先物やデリバティブ取引によるリスク管理を行ってきた当社グループの知見を生かし、小売ニーズをとらえた料金プラン設計を実施したハイブリッドプラン・完全固定プランの引き合いが強まっている



1. 24.3期 第3四半期決算概要、第4四半期の見通し
2. 25.3期 業績見通し(2023年11月10日発表資料の補足)
- 3. 海外事業の進捗**

- カンボジア王国鉱業エネルギー省との間で、バイオマス燃料やバイオマス発電等のエネルギー開発に関する役割・協力関係を確認する覚書（MOU）を締結
- 2024年6月を目途にフィージビリティスタディ完了を目指す
- ゴムの木、アカシア、ココナッツ等を対象に燃料調査を進めると共に、カンボジア王国とも協議の上新規のアカシア林の育成等を検討中



岸田内閣総理大臣、フン・マネット首相立ち会いの下で行われた、
覚書の文書交換式 2023/12/18



「日ASEAN経済共創フォーラム」でのMOUセレモニー
2023/12/16

参考：経済産業省 AZEC首脳会合に向けたMOU案件概要 令和5年12月資源エネルギー庁
<https://www.meti.go.jp/press/2023/12/20231218004/20231218004-10.pdf>

- ハウジャン省に建設中のバイオマス発電所（PDP7）について、2024年末の運開予定としており、現在スケジュール通りに工事が進捗
- 基礎工事完了。各建屋工事及びボイラ据付工事を実施中



容量	20MW (10MW×2)
燃料	もみ殻約13万t/年
FIT価格	8.47 ¢ /kWh

- イーレックスグループ初の統合報告書「INTEGRATED REPORT 2023」を近日発行予定
- 代表取締役社長 本名均の思いや、サステナビリティへの取組み、財務戦略などステークホルダーの皆様にはイーレックスグループをより深く理解していただくことを目的に制作



統合報告書 2023 イーレックスグループ

〈CONTENTS〉

- 経営理念
- イーレックスの歩み
- 社長メッセージ
- イーレックスのDNAと強み
- 特集
- 新たな成長に向けて
- 2030年の見通し
- 財務担当役員メッセージ
- 部門別戦略
- サステナビリティへの取組み
- 社外取締役鼎談
- 取締役一覧
- 企業／株式情報

ereX

ENERGY RESOURCE EXCHANGE